大浜中だより

2016.6.20

「地震のお話」　　校長　杉浦雅美

先日の集会で、生徒に「地震のお話」をしました。時間の都合で省略したところや、保護者や地域の方にも知って欲しい部分もありますので、学校だより用に直してみましたので御一読ください。

１　最近起きた地震

最近起きた大きな地震は、「熊本地震」（今年：活断層型）「東日本大震災」（５年前：プレート型）「阪神淡路大震災」（２１年前：活断層型）の３つです。それぞれの地震で亡くなった人の数は、熊本地震が約５０名、東日本大震災が約１万８５００人、阪神淡路大震災が約６５００人となります。このように亡くなった人の数に差が出たのは、規模の違いもありますが、東日本大震災は「津波」、阪神淡路大震災は「火事」が起きたためです。

したがって、「津波」が起きずに「火事」を出さなければそんなに犠牲者は多く出ないと言えます。

このあたり（静岡県中西部）で起きた大きな地震を一つあげると、東南海地震（７２年前：プレート型）で約１０００人が死亡しました。このあたりで大規模な津波が起きたという記録はないようです。東南海地震では一度ひずみが解放されているので、ひずみがたまり続けている東海地震、南海地震が心配されています。東南海地震が再び発生し、他の２つと合わさると３連動と言われる地震になります。

２　実際にはどうしたらいいか

実際には訓練のようにいきません。「自分の命は自分で守る」が基本です。

生徒ももちろんケガなどをしないで欲しいですが、先生が地震の揺れの間に無事で過ごすことも大切なことです。なぜなら、「津波」や「火事」から生徒を守らなくてはならないからです。先生方には率先して身を守る人になって欲しいです。

最後にお話しする「釜石の奇跡」の仕掛け人と言われている群馬大学の片田先生も率先して逃げることを奨励しています。たとえば、非常ベルが鳴ってもほとんどの人は逃げない。煙が出てきて、誰かが「家事だー」と叫んだら逃げる人がほとんど、非常ベルが鳴ったとたんに逃げる人が多くないと津波の被害者はなくならないと言っています。

実際に揺れているときは、

【教室】　机の下に潜り、机の脚をつかむ。

【廊下】　北側はガラスが落ちてくる危険性大。大きな柱の近くで低い体勢を取る。

【外・登下校中】　倒れてきそうなフェンスや石垣などのそばから離れる。
グランドなら中央付近の方が安全

【就寝中】　２階建以上の家なら、可能なかぎり１階には寝ない方が良い。
頭を布団で守る。家の中の耐震策を進めておく。

揺れが収まったら、次には津波に備えて高いところへの避難です。津波が来るときには、今までに体験したこともない大きな横揺れが来るはずです。ただし、横揺れでなくても高い場所へ避難することを念頭に置いてください。

３　釜石の奇跡

７０％以上の子どもたちが津波の犠牲者となってしまった学校がある一方で、岩手県釜石市では学校にいた子どもたちが一人も津波の犠牲者になっていません。

釜石市は先ほどの群馬大学の片田教授に防災の指導をお願いしていました。最初は大人たちに防災について学習してもらっていましたが、大人は「私がもう何十年も生きてきて津波なんか来ていない。この先も来ないよ。」という意識で防災が浸透していかない。３年ぐらい大人相手の防災を行った結果、ついにあきらめ、子どもたちへの防災教育への切り替えを行いました。「この子どもたちが大人になったときに地震が来たらすぐに逃げる大人になってくれればいい。」と思い防災教育を始めた矢先に東日本大震災は起きたのです。

私は、東日本大震災の５ヶ月後に釜石市を訪れ、当時釜石中学校内にあった釜石東中学校の教頭先生をたずね、直接お話を聞くことができましたので、釜石東中の避難についてお話しします。

釜石東中学校は津波ハザードマップの浸水想定区域に含まれていませんでした。想定通りなら、釜石東中学校の生徒は避難の必要はありませんでした。ところが実際には津波は釜石東中学校を飲み込みました。津波のあとには、すぐ近くに鵜住居（うのすまい）小学校の３階に軽自動車が突き刺さっていました。

釜石東中学校は津波の避難地として「ございしょの里」というところを避難地として決めていたので「ございしょの里」に向かって避難することになります。中学校を出て、「ございしょの里」に向かうと、鵜住居小学校があるのですが、鵜住居小学校の子どもたちが校舎の上の方の階に避難している様子が見えました。鵜住居小学校の子どもたちは中学校の生徒が逃げていく様子を見て、自分たちも逃げることを決断しました。この判断が小学生の生死を分けることとなりました。

「ございしょの里」まで中学生、小学生さらに園児（鵜住居保育園）と一緒に避難したところ、「ございしょの里」は一部が切り立った崖のようになっているのですが、「ここも小石がポロポロ落ちてきて危ないのではないか」と生徒と若い教員が言い出したそうです。そこで教頭先生は、その先にある「山﨑デイサービスホーム」に避難できるかを確認して、OK が取れたので次の避難地として、「山﨑デイサービスホーム」に向かったそうです。そこにみんなが無事到着しかけたころに津波が直ぐそこまで迫ってきて、最終的には、さらにその先の石材店まで避難し、一人も津波の被害者を出すことがなかったそうです。

３月９日（２日前）にやや強い地震があり、この時は釜石東中学校はおろおろするだけで全く避難できずに、「次に起こったらちゃんと避難しよう」と職員で確認していました。

自分の個人的な予想ですが、東海地震も事前にやや強い地震が起こり，その後１週間以内に本震が来るのではないかと思っています。

「状況に応じて判断する力」が求められています。地域の防災において中学生は期待されています。日頃からイメージする、備えることが自分を守るために必要なことです。